

日本看護図書館協会 2013 年度第 45 回研究会報告

教育・研究担当理事

北里大学看護学部図書館 竹嶋純子

本協会初めての北海道、公立大学では日本最北端に位置する名寄市立大学を会場に去る 8 月 23 日（金）第 45 回研究会を開催致しました。参加者は 31 名です。本来ですと研究会は 2 日間の日程で開催されますが、今回は 1 日で 2 日分の内容を凝縮・集約させた研究会にしようと 4 月から新しく結成された役員が知恵を出し合い、豊かな教養や倫理観に基づく看護的実践を展開できる医療人の育成に向けて私たち図書館員ができることは何かを考えるきっかけとなる研究会をめざし「看護と全人教育ー豊かな人間性を備えた医療人育成のために、看護図書館ができること」と大きなテーマを掲げ、研究会開催準備にかかりました。講演・事例報告をお願いするにあたり講師の方々から「随分大きなテーマですね」と何度も言われたことが今は懐かしい気が致します。それにもかかわらず、講師を快諾頂きましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本研究会では、会場校の青木学長による基調講演、ベテラン司書による事例報告、緩和医療がご専門の旭川医科大学病院の阿部先生による特別講演を実施致しました。

はじめに教育福祉論・社会福祉学がご専門の青木学長による基調講演では、人間関係ー人間理解ーについて人間教育という視点での図書館の在り方を考える機会を与えて下さったように思いました。

事例報告では、平氏による新入生を対象とした従来の図書館ガイダンスに加え、4 年間の学生生活や将来の看護師としての職業への展望を目的として実施しているスタートアップ演習の紹介は興味深いものでした。

三田氏、谷氏、糸林氏からは、現在自館で取り組まれている事例を伺い大いに参考となりました。

最後の緩和医療専門医・整形外科専門医・精神腫瘍指導医の視点から「価値観で読む・聞く・話す」をテーマとした阿部先生の特別講演では、相手の価値観を知るー共感ーことにより自分自身の価値観だけではなく相手の価値観を理解し尊重することにより信頼関係が構築できるというお話を伺うことができました。

参加された方のアンケートについて少しご紹介致します。参加者 31 名のうち 16 名から回答を頂き、研究会全般の印象は、「大変有意義だった」が 70%、「有意義だった」が 30% という評価を頂きました。コメントでは、「図書館の役割として読書を促す方向性が提示された」、「どの講師もユーモアたっぷり引き込まれた」、「読書と人間形成について考えさせられた」、「より深く自分を振り返るテーマだった」等、今回頂いた貴重なご意見は今後の研究会・研修会に反映させて参ります。

最後になりましたが、ご参加下さった皆様と、会場をご提供下さいました名寄市立大学の皆様に心より感謝申し上げます。

次回の研究会に向け、委員は今日も活動しております。

プログラム

8月23日（金）

10:30～11:00 受付

11:00～11:15 開会挨拶

教育・研修委員長挨拶

日本赤十字九州国際看護大学図書館 伊東泰子

会場校挨拶

名寄市立大学図書館長 西村直道氏

11:15～12:15 基調講演：個人的経験から言えそうなこと

青木 紀氏（名寄市立大学学長）

12:15～13:50 昼食・企業展示・図書館見学

13:50～16:45 事例報告

- 1) 医療人育成に向けた大学図書館の取り組み
平 紀子氏（札幌市立大学附属図書館）
- 2) もうひとつの図書館の役割
三田弥生氏（岩手看護短期大学）
- 3) 図書館からの発信・知的好奇心倍増計画
谷紀美子氏（名寄市立大学図書館）
- 4) 闘病記分類に関する学生協働を通して
糸林真優子氏（旭川医科大学図書館）

16:45～17:00 休憩

17:00～18:00 特別講演：価値観で読む・聞く・話す― 闘病記読書の研究を足がかりに

阿部泰之氏（旭川医科大学病院）

18:00～18:15 閉会挨拶

教育・研究担当理事

北里大学看護学部図書館 竹嶋純子